会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（３）職業実践専門課程等に関する支援体制づくりの推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回実態調査WG |
| 開催日時 | 令和2年10月27日（火）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | 学校法人麻生塾 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾 委　　　員：林　宏冶、岡村　慎一、山根　大助、川端　康浩、古賀　稔邦(オンライン参加)　　　　　　　　　　 計6名オブザーバー：佐藤　昭宏、松田　義弘、樋口　健、増子　卓矢　計4名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計11名 |
| 議題等 | 1. 前回の振り返り（林）

(1)全体像(ゴール）の説明①自己点検　 共通的評価標準モデル開発②第三者評価　標準モデル開発(2)スケジュール説明(3)自己点検評価・第三者評価に関する実態調査(アンケート調査)内容決定(4)上記アンケート調査の実施/分析1. 本日のゴールの説明

(1)自己点検評価　共通的評価標準モデル作成に向けた方向性の決定(2)第三者評価に関する学校への聞き取り調査校の検討1. 進め方（林）

(1)アンケート調査の状況確認・自己点検評価についてのアンケート結果　・520～530校（各規模いいバランスで）から回答をいただいた。　・毎年実施している学校が9割を占め、評価対象時期は前年度分が7割弱、当年度分が3割となった。・取組については、ほぼ満足しているが、エビデンスの不足、内部質保証・国際交流公開にはばらつきがある。・内部向けには役立っているが外部に対しては取組が必要。また改善は一部のみで全体での共有には至っていない。・是正に関しては人材不足があげられている。・今後、分野別、規模別での集計をする。・第三者評価についてのアンケート結果・約90校から回答をいただいたが、8割弱が実施したことがなく、5年に1度の更新頻度が多い。・評価項目は自己点検評価とほぼ同様で、評価基準は職業実践専門課程の評価基準が多い。・責任者・担当者に対する研修は半数近くが行っていない。・自己点検評価と同様、内部向けには役立っているが外部に対しては十分に行えていない。・費用対効果の問題がある。・公開情報は、それぞれの評価機関によって異なってくる。(2)今後の方針検討①自己点検評価　共通的評価標準モデル作成に向けた方向性の決定　・第三者評価の促進を考え、第三者評価項目とすり合わせをし、項目を　　絞り込んでいく。　・評価内容は、機関別に「基本」＋「オプション」の段階で設定し、エビデンスを付けていき、評価項目を作成する。　・財務の項目は、法人単位とする。　・学習成果は、目標設定→教育成果の指標・評価→改善活動をしているというような大きな活動（質向上のためのマネジメントシステム）の単位とする。　・自己評価の基準を明確にし、提示できるような標準モデルとする。②第三者評価に関する学校への聞き取り調査校の検討　・地域・規模等を考慮し、対象校、担当を決定していく。　1. 11月実態調査WG会議日程確定

・学校法人京都中央学院　YIC京都にて 11月17日（火）9:30～11:30 |
| 配布資料 | ・全体像　共通基盤整備委員会・実態調査WG会議資料　sheet 計画・実態調査WG会議資料　sheet 201027会議の進め方・実態調査WG会議資料　sheet　方向性の確定 |

以上